

## 自由診療でマンジャロ注射を始めてみませんか？

週1回の簡単な注射で、無理なく体重減少を目指せる治療です。

「食事制限が辛い」「なかなか体重が減らない」

そんな方におすすめです。

---

### <マンジャロ注射の特徴>

- ・マンジャロは、食欲を抑え、食べたものの消化をゆっくりにするお薬です。
  - ・自然と食事量が減り、体重が落ちやすくなります。
  - ・これまでのお薬よりも効果が期待でき、多くの方が使用されています。
  - ・注射は週1回のみ。  
ペン型注射器をお腹に当てるだけで、ご自宅で簡単に自己注射できます。
  - ・食事や軽い運動と組み合わせることで、半年で5~10kg程度の減量が期待できます。
- 

### <体重が減ること期待できること>

- ・腰や膝への負担が軽くなる
  - ・心臓や脳の病気のリスクを下げる
  - ・睡眠時無呼吸症候群の改善が期待できる
- 

### <マンジャロについて>

マンジャロ(チルゼパチド)は、糖尿病治療薬としてすでに医療現場で使用されているお薬です。糖尿病と診断されている方は、保険診療で使える場合もあります。

現在もっとも体重減量効果が期待されている、注射薬です。

難しくいうと、食欲や胃腸の動きを制御する<GLP-1 受容体><GIP 受容体>を強力に押さえ、食欲を減らし、すぐおなかがいっぱいになります。

---

## <当院での治療について>

- ・自由診療は、当院のエイジングケア ポヌールで行います。
- ・BMI25 未満の方には処方していませんので、あらかじめご了承ください。

保険診療をご希望の場合→総合病院に紹介します。

- ・BMI35 以上の方は、<肥満外来>で、保険診療の対象となる場合があります。
- ・ただし、総合病院のみでの対応となり、  
平日午前中のみを受診、まず6か月間、食事と運動の指導を受けてから治療開始となります。
- ・治療できる方は限られ、1年間限定の治療終了後に体重が戻る可能性もあります。

---

## <自由診療の費用について>

まず、初期量はどなたも2.5mgです。4週後に、標準量の5.0mgに増量します。

しばらく5.0mgを数ヶ月以上継続し、効果不十分なら増量します。

	自由診療(税込み)
マンジャロ注 2.5mg x4本 <初期量>	22,000 円
マンジャロ注 5.0mg x4本 <標準量>	44,000 円
マンジャロ注 7.5mg x4本 <高用量>	6,6000 円

- 自由診療では、お薬代のほかに、  
初診料:1,000 円、再診料:1,000 円、注射手技説明料:1,000 円 がかかります。
- また、2ヶ月目以降、4ヶ月に1回、採血料 2,000 円が必要です。  
※詳しい費用は診察時にご説明します。

---

## <使用上の注意>

- ・治療を始めたばかりの頃に、吐き気・胃もたれ・下痢・便秘などが出る場合があります。  
多くの場合、徐々に落ち着いていきます。

- ・まれに体調変化が起こることがありますので、気になる症状があればすぐにご相談ください。
- ・妊娠中・授乳中の方は使用できません。
- ・甲状腺のご病気がある方は、事前に主治医へご相談ください。

＜クリニックにて、当院医師の勧めのある方には、特別価格にて販売します＞

肥満症があり、積極的な減量が必要と考えられる方です。

	自由診療(税込み)	保険診療:3割負担 (総額)＜参考までに＞
マンジャロ注 2.5mg x4 本 ＜初期量＞	22,000 円 < 特別価格 30%引き>14,960 円	約 5,400 円 クリニック 2,400 円+薬局 2,920 円
マンジャロ注 5.0mg x4 本 ＜標準量＞	44,000 円 < 特別価格 30%引き>30,800 円	約 76,30 円 クリニック 2,400 円+薬局 5,230 円
マンジャロ注 7.5mg x4 本 ＜高用量＞	6,6000 円 < 特別価格 30%引き>46,200 円	約 99,40 円 クリニック 2,400 円+薬局 7,540 円

- ◆ マンジャロには、これまでの薬にない、本格的な減量効果があります。
- ◆ 自費でマンジャロを使用することにより 10kg 以上の体重を減らせる可能性もあります。
- ◆ 場合により 15kg以上やせれる可能性もあります。
- ◆ 体重が 90kg 以上とか 100kg近くで膝や腰が悪くなったり、脂肪肝や SAS が悪化することもあります。そうした方にの人生を変える、ゲームチェンジャーになる可能性を秘めたお薬です。
- ◆ 肥満外来より若干割高になりますが、平日に頻回に総合病院に行く必要はありません。また、肥満外来での注射製剤は、1 年間だけという使用期間の制限があります。注射の中止によるリバウンドの恐れもあるため、上記の自由診療をその後の受け皿としても利用できます。